

令和6年度  
第2回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

1 日 時	令和6年7月24日（水） 午後2時00分～午後4時30分
2 場 所	教育委員会室
3 議 題	各施策についての点検・評価
4 資 料	次第、座席表、出席者名簿、令和6年度点検評価委員会審査日程、令和6年度教育委員会の点検・評価報告書（案）、令和5年度教育行政方針
5 出 席 者	別紙出席者名簿のとおり
6 議 事	<p>&lt;開 会&gt; 14時00分開会</p> <p>&lt;会議の公開&gt; 会議を公開することを決定した。傍聴者希望者はなし。</p> <p>議題 各施策についての点検・評価 令和6年度教育委員会の点検・評価報告書「Ⅲ 点検・評価の結果（令和5年度事業対象）」において、「4 人生100年時代を輝き続ける力の育成」の13事業（事業名は別紙「令和6年度点検評価委員会審査日程」参照）について所管課より説明を行った後、委員からの意見及び質問を受け付けた。</p> <p>【主な意見及び質疑】 （1）さいたま市民大学事業の推進 &lt;橋本委員&gt; 市民大学講座についてリピーターが多いのではないと思うが、新しい講座の開設は検討しているのか。 &lt;生涯学習総合センター&gt; 市民大学については市民大学運営委員会において実施する講座の内容を審査しており、毎年プレゼンテーションを行いながら企画をしているところ。リピーターが多いことは事実ではあるが、定員がオーバーした場合は、今年度初めて参加する方を優先するようにしている。 &lt;橋本委員&gt; デジタル系の講座がやはり人気が高いのか。 &lt;生涯学習総合センター&gt; パソコン講座の需要が高い。 &lt;平澤委員長&gt; オンライン講座について、スポーツ分野の講座についても検討してみてもどうか。需要があると思う。</p>

令和6年度  
第2回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

(2) 子どもの学び・親子の育ちの支援の充実

<平澤委員長>

親の学習事業について、事業開催数の実績の数字は。また、親が参加しやすい日程での開催となっているのか。

<生涯学習総合センター>

親の学習事業については、138 事業実施して、参加した人数は 1,013 人。日程については平日の時間での開催も実施しており、特別配慮は実施していない。

<平澤委員長>

アンケートをとるなど、フィードバックを実施しているか。

<生涯学習総合センター>

アンケートでの結果は受けて事業改善に生かしている。

<平澤委員長>

ぜひ、事業へ生かしていただきたい。

(7) - 1 生涯学習施設それぞれの特色を生かした学校との連携【博物館】

<平澤委員長>

小学校への巡回展について、これ以上の開催数は難しいのか。また、実施している学校は例年同じ学校などということが多いのか。

<博物館>

今年度の実績は 77 校で増えてはいる。申込が増えれば増えるほどありがたいが、職員 2 ～ 4 名で実施しているため、対応職員（公用車台数）に制限があるのも課題である。対応方法を検討していきたいと考えている。実施している学校は、例年同じ学校が多い状況ではある。

<平澤委員長>

一度も活用していない学校に対するアプローチは実施する必要があると思う。

(全体の意見)

<平澤委員長>

令和5年度について新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことに伴い、イベントに関して参加が増えていることは当然のことである。そのため、令和6年度の結果が横ばいであっても失敗とは言えないと思うので、数字の判断については社会的な情勢についても配慮を加えてもよい。

デジタルの講座については、世の中にデジタルコンテンツがあふれてきている中で、市が作成するデジタルコンテンツが選ばれることは非常に難しい。例えば、YouTube におけるショート動画作成など、工夫が必要である。

また、SNS での炎上対策などメディアリテラシーへのニーズは、今後も高まっていく可能性が高いので、市民にとってニーズのあるデジタルの講座充実を期待する。

令和6年度  
第2回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

<橋本委員>

スマートフォンを使わないとできないことが増えてきている。市の講座は市民の方が安心して参加しやすいというメリットもあると思うので、ぜひ積極的にそういった講座も充実させてほしい。

<休憩・担当所管入れ替え>

「2 12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成」の12事業（事業名は別紙「令和6年度点検評価委員会審査日程」参照）について所管課より説明を行った後、委員からの意見及び質問を受け付けた。

【主な意見及び質疑】

(1) 「探究する読み」のできる児童生徒をはぐくむ「さいたま読解力向上プロジェクト」の推進

<平澤委員長>

プロジェクトチームと記載があるが、構成人数は。

<教育課程指導課>

選抜された教員12名で構成されている。

(4) さいたま市学習状況調査等の結果を活用した教育支援の充実

<橋本委員>

アンケートの内容で「学校にいる大人」という表現があるが、これは誰のことを指しているか。

<教育研究所>

大人について定義はないが、教員のほかさわやか相談員やスクールカウンセラーも含んだ大人という認識で回答いただいている。

<平澤委員長>

全国学力・学習状況調査はあくまで客観的に学習状況を図る目的で実施しているものなので、先生方や子どもたちに対する過度なプレッシャーとならないように注意を払っていただきたい。

(5) 市立高等・中等教育学校の特色化・魅力化の推進

<橋本委員>

国際交流協会と連携した交流事業は現在あるのか。

<高校教育課>

過去にあったことは承知しているが、現時点では教育委員会として直接連携はしていない。

<平澤委員長>

令和6年度  
第2回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

ピッツバーグやイノベーションプログラムについては生徒の負担はゼロなのか。

<高校教育課>

1人10万円の補助で、残りは各家庭の負担となっている。

<平澤委員長>

円安が進む中、かなり負担としては大きいのではないかと思う。クラウドファンディングなど、生徒の負担が減るような方法をぜひ検討していただきたい。

また、オンラインでの交流は実施しているのか。

<高校教育課>

持続的に事業を継続するためには、費用についても検討していかなければならないと考えている。また、訪問先についても現在は米国が中心ではあるが、今後は検討する余地はあると考えている。オンラインについては実施した事例があるので、海外の高校や大学とのオンラインでの交流も検討していかなければならないと思う。

<平澤委員長>

派遣された生徒が戻ってきた後に、その経験を行っていない生徒へ共有することも重要だと考える。また、派遣先についてはアジアも含めて選択肢は考えられると思う。大事なことは、日本以外の文化を肌で感じるということだと思うので、今後も継続して実施をお願いしたい。

(6) 学びの下支えとなる「非認知能力」(EQ)の向上に向けた取組の推進

<平澤委員長>

EQ診断の取組は面白い取組だと思うが、使い方によっては非常に危険なものとなるので、実際に数値では測れないものであることを踏まえた上で、活用方法については十分に注意をしていただきたい。

(7) 館岩少年自然の家を活動拠点とした自然体験活動の推進

<橋本委員>

改修した館岩少年自然の家は一度に何人くらい泊まれるのか。

<館岩少年自然の家>

とくさ館が360名、からまつ館が200名の計560名となっている。

<橋本委員>

その人数が来るとなると用意している体験プログラム(山登りやイワナのさばきなど)についてスケジュール調整はうまくいっているのか。

<館岩少年自然の家>

学校について、1日ずつ来訪日をずらして泊っていただくよう調整し、プログラム活動が重複しないように実施しているので問題はない。

<橋本委員>

スキー教室の指導員確保が課題と記載しているが、毎日プログラム活動が入っているからという認識でよいか。

令和6年度  
第2回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

<館岩少年自然の家>

その認識である。地元の方に広報による周知を行いながら、なんとか人数を確保している。

<橋本委員>

他市の子どもを過去は受け入れていたと聞いているが現在は。

<館岩少年自然の家>

現在は市内の子どもたちで予約は埋まっており、他市の子どもの受け入れは行っていない。

(9) 「さいたま市小・中一貫教育」による教育の質の向上

<橋本委員>

小・中学校の交流はどのようなものが行われているのか。

<教育課程指導課>

児童会と生徒会の連携によるあいさつ運動や小学校の学習成果を中学校へ発表するなど実施している。

<橋本委員>

小5・6年生に中学の部活動体験などを育成会で行っており、中1ギャップの解消の一助としている。小・中・高の連携などを地域で行っている事例もあるので、周知・活用を図ってほしい。

(11) 子ども読書活動の推進

<平澤委員長>

読書が好きになるためには子どもたちに対して、読書時間確保することが重要だと考えている。そのためそのような時間を設けるような工夫を行っていただきたい。

<橋本委員>

「としょ丸どくしょてちょう」は最近始めた事業なのか。

<資料サービス課>

以前より実施している事業である。今年度も新一年生に配っているが、子どもに読書に興味をもってもらうために図書館の利用案内も併せて配布したところ。

(12) 児童生徒一人ひとりへきめ細かな支援を行うスクールアシスタントの配置

<橋本委員>

Sola ルームについて、保健室登校の子どもたちの居場所を誘導していると考えてよいのか。

<総合教育相談室>

誘導しているというわけではなく、保健室がいいという子どももいれば、Sola ルームがいいという子もいるので、子どもの実態にあわせて様々なところに居場所をつくっている。

令和6年度  
第2回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

「3 グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成」の13事業（事業名は別紙「令和6年度点検評価委員会審査日程」参照）について所管課より説明を行った後、委員からの意見及び質問を受け付けた。

【主な意見及び質疑】

（4）小・中・高等学校の学びの連続性を意識した主権者教育の推進

<平澤委員長>

模擬投票の実施の記載があるが、期日前投票を子どもたちが学ぶ機会はあるか。

<高校教育課>

教員という立場でのお答えになるが、選挙については、中学校の公民における学習内容に含まれている。その際に実際の期日前投票のことなど触れている教員が多いと考える。

<平澤委員長>

近年、期日前投票の仕組みがブラッシュアップされている。そういったものを教えることで投票率アップにもつながると思う。

（5）キャリア教育の推進

<平澤委員長>

未来くるワークについては、事業者の確保が大変だとは思いますが今後もぜひ事業の継続を進めてほしい。

<橋本委員>

1日実施の学校がある理由は。

<生涯学習振興課>

以前は3日間を原則としていたが、コロナ禍を経て1日でも実施できるような柔軟な対応を実施しているところ。

（6）不登校等児童生徒への支援の充実

<平澤委員長>

メタバースを活用した相談やコミュニケーションが支援として効果的だということを報道で確認した。今後も多くの人に活用いただけるように事業を積極的に広報していただきたい。

<橋本委員>

不登校児童生徒について現状何名いるのか。

<総合教育相談室>

令和5年度の数字ではあるが2,693名である。

<橋本委員>

以前より増えているように思う。誰一人取り残さないという考えのもと積極的な施策を展開していただきたい。

令和6年度  
第2回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

(12) 「子どものための体力向上サポートプラン」の推進

(13) 学校・家庭・地域が連携した食育の充実

<平澤委員長>

体力向上及び食育について子どもたち学ぶモチベーションを上げるきっかけを作るために、体力及び食育がなぜ必要なのかということをしかりと教えた上で、運動が面白い・食事が楽しいとつなげていくことを踏まえて事業を展開していくとより事業が充実していくように思う。

(その他の意見)

<平澤委員長>

赤ちゃん・幼児触れ合い体験について現在も実施しているのか。

<教育課程指導課>

コロナ禍を経て、現在も実施している。

<平澤委員長>

他では得られない体験だと思うので今後も続けていただきたい。

<平澤委員長>

第1回の内容ではあるが「VI(4)学校における働き方改革の推進」にて、校務に負担や多忙感を感じている割合が増えているが、今後どのように改善を図っていくのか。

<教職員人事課>

働き方改革については、教育研究所と連携して、業務改善ワーキンググループを作り改善を図っているところ。

<平澤委員長>

先生方の負担感が急になくなることはないということは承知しているので、徐々にでも負担感を減らしていただきたい。先生方の負担が減り、余裕ができることで子どもたちに対するより良い教育ができると思うので引き続き改善をお願いしたい。

<閉会> 16時30分閉会

【問合せ先】教育委員会事務局管理部教育政策室 829-1626